

平成 28 年度支部総会

議事メモ

日時： 平成 29 年 2 月 3 日（金） 16:50-17:20

場所： 東北大学大学院農学研究科第 3 講義室

以下の議事内容は異論無く認められた。

(1) 平成 28 年度日本水産学会東北支部 事業報告

1. 会議

- ・ 第 1 回幹事会

日時：平成 28 年 5 月 26 日～6 月 1 日

方法：電子メールを用いたメール会議方式

- ・ 第 1 回支部連絡調整員会議

日時：平成 28 年 6 月 13 日～6 月 20 日

方法：電子メールを用いたメール会議方式

- ・ 第 2 回幹事会

日時：平成 28 年 7 月 6 日～7 月 12 日

方法：電子メールを用いたメール会議方式

- ・ 幹事・連絡調整員合同会議

日時：平成 28 年 10 月 22 日（土）

場所：北海道函館市 北海道大学水産学部

- ・ 第 3 回幹事会

日時：平成 29 年 2 月 3 日（金）

場所：宮城県仙台市 東北大学農学部

- ・ 東北支部総会

日時：平成 28 年 2 月 3 日（金）

場所：宮城県仙台市 東北大学農学部

2. 北海道-東北合同支部大会

日時：平成 28 年 10 月 22 日～10 月 23 日
 場所：北海道函館市 北海道大学水産学部
 参加人数 総数 71 名、うち東北支部 32 名

3. 平成 28 年度支部例会

日時：平成 29 年 2 月 3 日（金）
 場所：宮城県仙台市 東北大学農学部
 参加者数 44 名

1. 特別講演

小坂善信（青森県庁）、遠藤宜成（東北大院農）

2. 特別セッション「水産研究に活用できる最新技術について」

坂見知子（東北水研）、佐藤 実（東北大院農）

(1) 平成 28 年度 編集報告

平成 27 年度日本水産学会東北支部会報（第 66 号）の編集

支部例会報告 10 ページ

記事 11 ページ

合計 21 ページ

(2) 平成 28 年度 決算報告（案）

平成 28 年 3 月 1 日 ～ 平成 29 年 2 月 28 日

支部交付金	329,100	(328,200)
雑収入（利息）	39	(0)
繰越	301,347	(302,227)
合計	630,486	(630,427)

<支出>

その他印刷費	158,157	(50,000)	支部会報印刷製本費
通信費	35,538	(25,000)	発送費，運送費等
学会賞賞金	18,272	(27,500)	楯・賞状
会議費	0	(3,000)	
旅費	177,970	(80,000)	支部大会電車旅費
広報費	12,960		若手の会ポスター印刷
諸謝金	11,137		支部大会講演者

消耗品費	5,583	(30,000)	封筒など
光熱水量費	0	(5,000)	
賃借料	0	(100,000)	
支払手数料	1,550	(5,000)	各種代金振込
雑費	350	(2,737)	駐車場代2件
合計	421,517	(328,237)	
次期への繰越	208,969		

平成 28 年度日本水産学会東北支部会計監査報告書

公益社団法人日本水産学会東北支部細則に基づき、平成 29 年 3 月 1 日に東北支部事務局から提出された平成 28 年度事業報告および収支決算報告の各項目について監査しました。その内容は適正なものと認めます。

平成 29 年 3 月 1 日

支部監事 松原 久 

(3) 平成 29 年度日本水産学会東北支部 事業計画 (案)

- 平成 29 年 4 月 東北支部会報第 67 号発刊
- 平成 29 年 6 月 東北支部連絡調整員会議 (メール会議)
- 平成 29 年 6 月 第 1 回東北支部幹事会 (メール会議)
- 平成 29 年 10 月 平成 29 年度東北支部大会 (福島市) 予定
ミニシンポジウム、研究発表
東北支部幹事会・支部連絡調整員合同会議
- 平成 29 年 10 月 水産・海洋系高等学校生徒研究発表東北地区大会出席
- 平成 30 年 2 月 東北支部例会 (仙台) 講演会等
第 2 回東北支部幹事会
東北支部総会

その他、必要に応じて支部幹事会または支部連絡調整員会議を支部長が招集し開催する。

- (4) 平成 29 年度 編集計画
1. 平成 28 年度日本水産学会東北支部会報（第 67 号）の編集
 2. 平成 29 年度日本水産学会東北支部大会講演要旨集の作成
 3. 平成 29 年度日本水産学会例会講演要旨集の作成

(5) 平成 29 年度日本水産学会東北支部 予算（案）

平成 29 年 3 月 1 日 ～ 平成 30 年 2 月 28 日

支部交付金	329,100
繰越	301,354
合計	630,454

<支出>

その他印刷費	50,000
通信費	25,000
学会賞賞金	27,500
会議費	3,000
旅費	80,000
広報費	
諸謝金	
消耗品費	30,000
光熱水料費	5,000
賃借料	100,000
支払手数料	5,000
雑費	3,600
予備費	301,354
合計	630,454

4. 報告事項

(1) 支部長賞審査結果

平成 28 年度日本水産学会北海道-東北合同支部大会（平成 28 年 10 月 22 日～23 日、函館市 北大水産学部）における口頭発表の中から、日本水産学会東北支部長賞細則規程及び同賞申し合わせ事項に従って審査した結果、以下に決定した。

1) 受賞者：鈴木はるか（東北大院農）

演題：「地盤沈下と護岸工事がアラメ群落とそれに関わる生物群集に与えた影響」

発表者：○鈴木はるか（東北大院農）・青木智也（シャトー海洋調査）・久保祐貴・青木
優和・遠藤 光・吾妻行雄（東北大院農）

[講演要旨]

【目的】宮城県牡鹿半島狐崎浜沿岸は2011年に発生した地震により0.9m地盤沈下した。この海域では、沈下した防潮堤を補修するため2014年7月から護岸改修工事が進められてきた。護岸工事では沿岸域の埋め立てを伴うことから、潮下帯の藻場に影響を与える可能性がある。本研究では、狐崎浜沿岸で藻場を形成する褐藻アラメ群落とそれに関わる生物群集について空間分布の経時変化を追跡した。これにより、地盤沈下とその後の護岸改修工事が、潮下帯生物の空間分布に与えた影響を明らかにする。

【方法】狐崎浜沿岸において、2011年7月に岸壁を基点として4m×30mの永久調査区を設定した。調査区内の全てのアラメの生育位置を記録して個体識別し、その後毎月それらの生残の確認および新規加入の幼体についても同様に記録した。また、バフンウニ、植食性巻貝であるコシダカガンガラとクボガイおよびホンダワラ科褐藻類の空間分布を2012年から2016年にかけて毎年1回調べた。護岸工事では、2014年9月に岸壁から6mまでの海底が掘削により破壊され、防潮堤の嵩上げに伴って岸壁から1mまでが埋め立てられた。このため、4m×24mに縮小した調査区で調査を継続した。

【結果および考察】地盤沈下後、アラメの加入は岸側（水深0.5m）で多かった。沖側（水深2.0m）では加入が少なかったが、成体は66.7%が沈下から3年後も生残していた。ホンダワラ科褐藻は沖側で優占し、分布域に変化はなかった。このうち、ヨレモクは毎年500個体/120m²程度で推移したが、フシスジモクは2012年の308個体/120m²から2016年の102個体/96m²へと減少がみられた。沖側においては、地盤沈下に伴う光量の低下や津波由来の砂泥の堆積がアラメの加入やフシスジモクの競争に影響を与えたことが示唆される。植食動物では護岸工事後の空間分布に変化がみられた。コシダカガンガラは調査区の全域に分布したが、その個体数は2014年と2015年に減少し、2016年に増加した。クボガイは地盤沈下後には岸側に分布したが、護岸工事後に個体数が減少し、その後は漸増するとともに水深1.5mまで分布域が拡大した。バフンウニは地盤沈下後から岸側に分布しており、護岸工事後に個体数が減少した。護岸工事後、岸側では細礫が堆積するようになり、クボガイの分布拡大とバフンウニの減少を促したと推察される。これらのことから、地盤沈下とその後の護岸工事が生物の分布に与える影響は一様でないことが示された。

2)受賞者：山本佑樹（東北大フィールド研セ）

演題：「マコガレイ集団におけるミトコンドリアDNAのハプロタイプ分類について」

発表者：山本佑樹・池田 実（東北大フィールド研セ）・後藤友明（岩手大三陸水研セ）・
高梨愛梨・横澤祐司（岩手水技セ）・木島明博（東北第フィールド研セ）

[講演要旨]

【目的】ミトコンドリア (mt) DNA の調節領域前半部は超可変領域 (HVR) と呼ばれ、種内の遺伝的多様性研究のための DNA マーカーとしてよく用いられている。しかし、進化速度が速いため、多重置換とホモプラシーを生じさせ、ハプロタイプの誤分類をもたらし得ることが指摘されている。本研究は、マコガレイ集団を対象として HVR の塩基配列を調べ、進化速度の比較的遅い他の遺伝子領域の配列とも比較して、HVR におけるハプロタイプの誤分類が起きているかどうかについて検証することを目的とした。

【方法】2012～13年に岩手県大槌湾で採捕されたマコガレイ当歳魚 119 個体を対象として、mtDNA の HVR (378 bp) の塩基配列を調べた。また、同じ個体について ND2 (1045 bp) と Cyt b (1141 bp) 遺伝子の塩基配列も調べた。それぞれの領域でハプロタイプ分類を行い、HVR が同一のハプロタイプであっても ND2 や Cyt b で異なる場合があるかどうか調べた。

【結果と考察】ハプロタイプ数は HVR で 39、ND2 で 29、Cyt b で 30 となり、HVR のハプロタイプ数が最も多かった。しかし、HVR で同一の配列を示す個体であっても ND2 や Cyt b の配列が異なっている場合が 11 と 14 例あり、HVR の配列のみに基づくハプロタイプ分類には誤りが含まれることが確実となった。ハプロタイプ間の系統関係をネットワーク解析により検討したところ、Cyt b では単純なネットワークを示したが、HVR と ND2 ではホモプラシーを示唆する網状のハプロタイプネットワークを示し、特に HVR のネットワーク構造は複雑であった。以上の結果から、マコガレイの HVR では、おそらく多重置換に起因するホモプラシーが生じており、本種の遺伝的多様性評価におけるハプロタイプ分類の精度を向上させるためには、他の遺伝子領域の配列も併せて解析することが必要と考えられた。

(2) 公益法人としての活動について

- ・平成 28 年度全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表東北地区大会

支部長が病気入院のため、事務局長が外部審査委員として参加、支部長奨励賞授与。

日時：平成 28 年 10 月 27 日 (木) 場所：気仙沼市民会館

支部長奨励賞：山形県立加茂水産高等学校「メタンハイドレートの探査と撮影への挑戦」

(3) その他

- ・平成 29 年度の支部体制について、神山新支部長が理事会から承認される見込み。
- ・平成 29 年度支部大会は福島県が担当県である。

4. 平成 28 年度役員名簿

1. 支部長

秋山秀樹 (東北水研)

2. 支部幹事 (50 音順)

吾妻行雄 (東北大院農)、秋山秀樹 (水産機構東北水研)、池田 実 (東北大院農)、大越和加 (東北大院農)、尾定 誠 (東北大院農)、加賀新之助 (岩手県庁)、片山知史 (東北大院農)、神山孝史 (水産機構東北水研)、木島明博 (東北大院農)、後藤友明 (岩手大学)、酒井敬一 (宮城県)、巢山 哲 (水産機構東北水研)、永島 宏 (宮城県水技セ)、服部 努 (水産機構東北水研)

3. 支部連絡調整員 (50 音順)

伊藤 博 (宮城県水技セ)、岩田恵理 (いわき明星大学)、大村敏明 (岩手県水技セ)、菅野信弘 (北里大海洋生命)、佐藤正人 (秋田県水振セ)、鈴木英勝 (石巻専修大理工)、高澤俊秀 (山形県水試)、竹谷裕平 (青森県産技セ)、富樫博幸 (水産機構東北水研)、平川直人 (福島県水産事務所)、横井勇人 (東北大院農)

4. 支部監事

松原 久 (青森県産技セ)

5. 事務局 (東北水研)

事務局長：岩崎俊秀

総務担当：服部 努、柴田泰宙

会計担当：巢山 哲、木所英昭

編集担当：成松庸二、酒井光夫